

HOW TO

タフブロックの 上手な使い方



START

種もみ入手

- 健全で傷のないたねもみを使用する
- 温湯消毒を併用することで、効果UP!

塩水選・水洗い

- 発芽力の高い種子の選抜
- 保菌種子の除去

水切り(乾燥)

浸種

- 浸種時の水はきれいなものを使用し、水温は10～15℃をキープ
- 水換えを行って、種子が酸欠になるのを防ぐ

催芽

蒸気催芽

播種

- 脱水機の使用、芽が痛まない程度の乾燥は問題ありません
- 天日による乾燥は実施しない
- 冷水で芽止める場合には、処理薬液と同量程度の水に静かに投入 ※かけ流しや攪拌はせず、取り出す際はゆっくりと
- クリーンな培土(市販品等)を使用
- TPN剤、ベノミル剤等による土壌消毒は実施しない(タチガレン剤は併用可)

無加温出芽(シートがけ等)

加温出芽(出芽器等)

緑化～育成

- プール育苗でも問題ありません(慣行通り、1～1.5葉期になるまで入水を控える)

催芽前処理

200倍希釈で、
24～28時間種子浸漬

01 薬液の調整

- 浸種の最後の水換えの液にタフブロックを加える
- 使用量:1リットルの水に対し5gのタフブロックを追加(200倍希釈で使用)

02 浸種

- 種もみを薬液に投入後、よくゆする
- 浸種は慣行法に応じて実施する

※底部に粉が沈殿しますが、効果に影響ありません

03 種もみの取り出し

- 液を攪拌せず、種もみをゆっくりと取り出す

催芽時処理

200倍希釈で、
24時間種子浸漬

01 薬液の調整

- 1リットルの水に対し5gのタフブロックを追加(200倍希釈で使用)

02 催芽

- 催芽は慣行法(水温約30℃、24時間前後)に応じて実施する

※底部に粉が沈殿しますが、効果に影響ありません

- ハトムネ催芽器も使用可能(若干泡立ちますが、問題ありません)

03 種もみの取り出し

- 液を攪拌せず、種もみをゆっくりと取り出す
- ハトムネ催芽器の場合、循環を停止後しばらく静置する

こうなっていたら、
処理成功!

出芽処理後、表面に露出した種もみの周囲にタフブロックの白い菌糸が見える



移植時の種もみ表面にタフブロックの黄色いコロニーが見える

